

治療終結における SDM とその後の SDM

HORAC グランフロント大阪クリニック

宮崎 真紀

【略歴】

学歴

2000 年 行岡技術専門学校 看護学科卒業

2014 年 生殖医療相談士認定資格養成講座

2020 年 不妊症看護認定看護師教育課程（日本看護協会）

職歴

2000 年～2005 年 公益財団法人田附興風会 医学研究所 北野病院

2008 年～2013 年 医療法人三慧会 I V F 大阪クリニック 主任

2014 年～現在 医療法人三慧会 HORAC グランフロント大阪クリニック 看護師長代理

資格

不妊症看護認定看護師

生殖医療相談士

2022 年 4 月から生殖補助医療が保険適用となり、まもなく 2 年を迎える。この改革により、患者の経済的負担も軽減され、不妊の悩みをもつカップルにとって不妊治療は身近な選択になった。クリニックでは治療を開始する年齢層も下がり初診患者数も増加傾向にある。それに伴い、中には不妊治療を行えば妊娠出来ると考えているカップルも少なくない。

女性の生殖年齢には限りがあり、また保険適用も年齢・回数制限がある。

保険適用回数が残りに少なくなった患者は、今後の治療継続の選択を考え悩み、また妊娠出来なかった患者は夫婦二人の生活、養子縁組、第三者の配偶子を用いた生殖医療といった選択を決断することとなる。

終結は、患者にとって辛い決断と妥協を強いられ、短期間では決定できず時間を要しながら決定していく患者も多い。

当院では、妊娠判定陰性や治療が思うように進まない患者に対し、診察後の看護面談を案内している。また、個別の看護相談室の中で、不妊症看護認定看護師や生殖医療相談士が治療終結に対する想いを聴き心理サポートを行っている。看護相談室に来る患者の多くが、何を指標に決断したら良いか？皆はどうやって決定しているのか？諦める気持ちの整理の仕方が分からないといった気持ちの迷いを語られる。また、夫や両親への申し訳ない気持ちや妊娠出来なかった自分を攻め、夫を思いやる気持ちが強いあまり本音で夫婦の話合いが出来ていない場合もある。

医療者は、そのような患者心理を理解し気持ちの傾聴と共に、どのような可能性や選択肢があるのか共に考え、今後の選択に寄り添うサポートが必要になる。

そして、パートナーとともに面談の機会を設け、これから先のライフプランの楽しみや生きがいを見つかることや、夫婦にとって納得のいく選択が出来る様に支援を行うことが重要である。今回のシンポジウムでは、不妊治療を受ける患者が増える中、看護師としての治療終結のサポートや現場での課題を報告する。